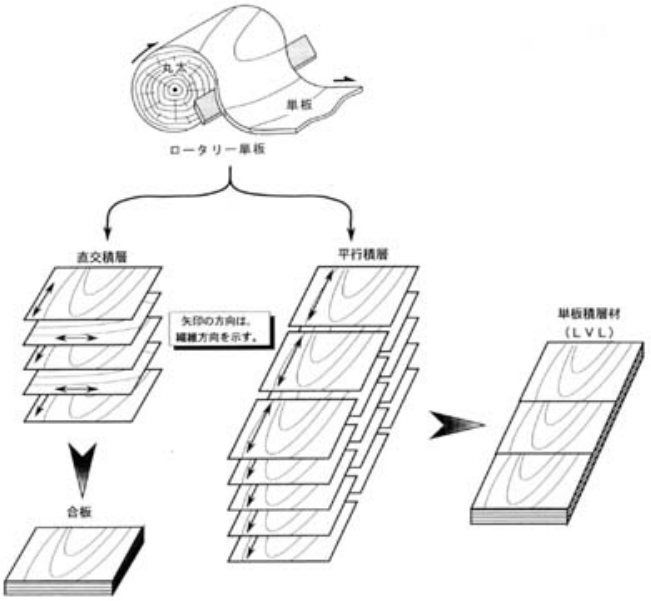
暮らしの中の木材
第6回　薄っぺらな木の話

木材利用部　高野　勉

木材に関係があって暮らしの中の薄っぺらなものとして思い浮かぶのは，やはり紙ですが，ここでは薄っぺらな木材について取り上げます。話を進める前に，まず薄っぺらな木材について定義します。薄っぺらな木材とは，一般に板と呼ばれるものよりも薄く，厚さがおよそ5㎜以下の木材を指します。これを専門的には単板（たんぱん）もしくはベニヤといい，特に化粧性を重視した単板を突抜（つきいた）といいます。

私たちの暮らしの中では，内装用の合板（プライウッド），突板を貼り付けたフローリングや家具など，いろいろなところで単板が使われています。時折，合板のことをベニヤ板と呼ぶことがありますが，これはベニヤと合板の意味を混同してしまい，元の意味から外れて使われるようになった言葉です。合板とは，単板（ベニヤ）を繊維方向が互いに直交するように重ねて接着した面材のことです。また，単板を直交させることなく繊維方向を平行に貼り合わせたものを，単板積層材（Laminated Veneer Lumber）といいます。英語の頭文字をとってLVLとも呼ばれています。LVLは，強度的に信頼性の高い材料として北米やヨーロッパでは，建築用構造部材として多く用いられていますが，我が国では構造部材としての使用量は少なく，内装材や家具材として用いられているのが実状です。LVLの表面には化粧用の単板などが貼られていることが多いため，なかなかLVLそのものを目にすることはありませんが，身近なところのあちらこちらに隠れています。例えば，ドア枠や家具の芯材，和室の廻り縁や長押など，その用途は多岐にわたっています。

ところで，私たちの食卓には，薄く切られたしゃぶしゃぶ用の牛肉や「かつらむき」された食材が並ぶことがあります。木材も同じように薄く切ったり，剥いたりすることができます。木材が本来持っている質感や化粧性を損なわず，貴重で高価な木材を有効に，また多量の製品にかえることができます。先の突板もこの仲間です。丸太を「かつらむき」と同じように切削した木材は，ロータリー単板と呼ばれます。

例えば，厚さ1㎜のロータリー単板を，直径20㎝の丸太から10㎝の芯が残るようにして剥いて作ったとしたら，長さ約24mの単板を作ることができます。そして，この単板を貼り合わせることによって，合板のような広い面積の板を作ることができます。この他にも，厚さの薄い単板であれば，防虫や難燃処理などの薬剤処理が容易に行えるので，こうした単板を貼り合わることによって，内部まで均一に防虫処理や難燃処理された材料として改良することができます。

このように木材を切削することによって得られた単板から，様々な製品を作り出すことができます。しかし，いろいろな樹種を有効に利用するためには，適切な条件で切削する必要があります。そのためには，樹種に応じて刃物の角度を変化させるのが一つの方法です。例えば，柔らかい木材を切削する時には，刃物の角度を小さくし，硬い木材を切削する時には，刃物の角度を大きくすることによって，適切な切削が可能になります。